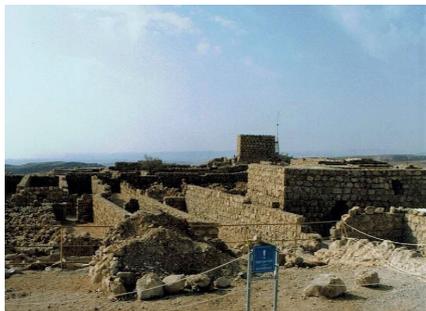


世界遺産アカデミー認定講師 File No.45

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当てて、お話を伺います。第45回目は、神奈川県で旅行会社を運営されている、^{まさき かずひこ}横一彦 さんです。横さんは、WHA認定講師として神奈川大学や相模女子大学で「世界遺産検定対策講座」をご担当されると同時に、観光業界の資格研修もご担当されています。今回は、多方面でご活躍されている横さんに、ユネスコ平和理念、世界遺産を通して学ぶコミュニケーションの大切さなどについて語っていただき、さらには「WHA member File (本誌P.7)」にもご投稿いただきました。

——遺産周辺のモノやコトの大切さ

現在は独立起業していますが、かつては、とある中堅旅行会社に身を置いていました。パリの街並みやノートルダム大聖堂、ヴァチカン市国やローマも、仕事上の観光スポットとしての認識が強かったのですが、同業者でもある私のパートナーが世界遺産検定を勉強し始めたのをきっかけとして、私自身も世界遺産に興味を持ち、いつの頃からか、各国の観光地を違った角度から意識し始めるようになりました。何事も知識が強みとなることが、往々にしてあります。世界遺産という言葉を知り修学することで、目前の観光スポットを「これが世界遺産です」と真実味をもって力強く語ることができ、お客様の興味を引き出し、より深い旅行体験へと導くことができます。顧客の獲得や困り



マサダ山の風景。この下に塩湖・死海が広がる

込みにも繋げることでできる優秀な、話題多き旅行セールスマンを目指せるのです。

今、思い起こすと、旅行会社に在籍していたからこそ、訪れることができた遺産がいくつかあります。エジプト・シナイ半島の『聖カトリナ修道院』やイスラエル東部の『マサダ国立公園』などです。前者は旧約聖書「十戒」の場面、後者はローマ帝国時代、ユダヤ教徒自決の悲劇の地。マサダの岩山から眼下に死海を見えるあの映像は、鮮明に記憶に残っています。やがて、世界遺産が世界遺産たる理由だけでなく、遺産周辺で起こっている様々な出来事も、意識するようになりました。つまり、その遺産の周辺地域も、役割や価値をもったものとして遺産と同じ時を刻みつつ、今日まで存在してきたのです。遺産を保護・保全するために緩衝地帯が指定されているように、世界遺産はその周辺地域も含めての背景(時代・権力闘争)、共に築かれてきたモノやコトも、語り継ぐ必要があるのではないのでしょうか。このように考える原点も、ユネスコ憲章前文に示されている「平和のとりで」にあります。そして、世界遺産で得た学びを自分の日常生活にも反映できるのです。短絡的なわだかまりや私見を勝手に広げるのではなく、まずは自分自身の中に「平和のとりで(砦)」を築く。そこに心を留め、隣人や周辺環境などに対して、どのように行動すればいいのか、と。瞬時に動くのではなく、一度立ち止まって考え直す知見の必要性を、世界遺産は教えてくれます。過去の経験や知識が「とりで」に蓄えられて、さらにその「とりで」を通すこと

で視野が広くなり、多様性あるものへと展開していくのではないのでしょうか。



書籍「日本の観光特産」

JMCグループ出版局MMPコミュニケーション刊

一方、仕事柄なのか、各地での観光業の取り組みにも関心を注いでいます。それぞれの地域には、特有の気候や地形で成った自然環境や文化的・社会的な生活から生まれた風土などがあります。そして、時間経過や環境変化などによって、そこにある様々なモノやコトが融合し絡み合っ、地域独自のモノやコトが派生し、存在し続けています。その形となったものが、地域の産物・産品、無形文化や伝統です。最近ではそういった視点から色々と書き留めたことを本にまとめました。

——心の“とりで”を築くこと

認定講師としては、現在、大学で「世界遺産検定対策講座」を担当させていただいております。ユネスコの平和理念はもちろんですが、それぞれの世界遺産の特徴や成り立ちの歴史、背景、あわせて、今日の我々の社会生活に影響をもたらしているモノやコトなどまで掘り下げながら、講義をしています。各々の活動には、人との連携や協力が必然です。特にコミュニケーション学を専攻する学生たちには、相手との意見交換や賛否を求める際、人と接する限り、必ずコミュニケーションは伴って人と、と説いています。社会人ともなれば、業務相手との折衝や交渉、提案の機会も多くなり、相対(あいたい)する場面では、防御する、身構える、隙を狙う、といった一線を画する「とりで」を設けるのではなく、相手の要望や思惑を覗き込んで探るような、直進せずに一度立ち止まって身を置く「とりで」をもつことが大切です。「平和のとりで」は、「あなたのとりで」なのです。相手に寄り添いながら、交流へと繋げていく。お互いに「平



サグラダ・ファミリア

それぞれの物語を感じさせる、装飾が細かなレリーフ

和をもたらす“とりで”を築くためのコミュニケーション力を身につけて、共にWin-Winとなつてほしい、と。

また、観光業に携わる方々に向けて、「観光プランナー」や「観光コーディネーター」資格の研修講義も行っています。日本各地には地域特有の産物や産品があります。これらを観光需要者に対して、どのように認知度を上げ、購買量の増加へと繋いでいくか、また、生産地への来訪に繋げられるか。観光プランナーは、話題作りからプランニングまで携わります。そして、その後に伴う、地域の産物・産品として創り上げた、モノやコトの需要と供給を継続的に循環させる仕組みや、地域経済・地域産業の造成と活性化へと導いていくのが、観光コーディネーターです。類似するものも多い現世では一過性、一度きりの体験で終わってしまいます。今ある顧客ニーズだけでなく、新たなニーズを創造し注目させる。観光産業を率先し従事していくリーダーを育てていければと願っています。



西表島にて。ロード・キルトとオーバー・ツーリズムの深刻さに心が痛みます

世界遺産を学んだ者として、個々の遺産の素晴らしさを語るとともに、遠くの世界のコトではなく、自分の世界での関わりとして、ユネスコ憲章前文の「平和のとりで」や世界遺産条約の理念をしっかりとお伝えしていきたいです。自己見解を発する前に、まずは「とりで」の中に仕舞って、多角的・俯瞰的に見直す。世界遺産とその周辺地域は、先代の時から伝承されてきたあらゆる営みが、今を生きる我々にコミュニケートしています。変化し続ける社会・文化、自然環境の中で、平和な今日を築いていくモノやコトを未来へと繋げていきたい、と考えています。



谷底から吹き上げる風が一瞬で雲を消す
天都市「マチュ・ピチュ」は、まさにドラマチック